

## 国 語

### 1 学習指導の工夫・改善

#### (1) 各教科等における探究的な学び

新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するために、教科等横断的な学習を充実させることが求められている。

各教科においては、「探究」の名称が付されていない科目等についても、それぞれの内容項目に応じて、探究的な活動は取り入れられるべきものである。各教科における探究的な学びには、探究のプロセス全体を通して資質・能力を育成するだけでなく、「整理・分析」や「まとめ・表現」など探究のプロセスの一部に焦点を当てることも考えられる。この際、「考えるための技法」を効果的に活用することが重要である。

国語科においては、選択科目の「古典探究」に「探究」の名称が付されているが、これは「総合的な探究の時間」や「理数探究基礎」、「理数探究」において用いられている「探究」とは意味が異なる。「総合的な探究の時間」は、課題を発見し解決していくために必要な資質・能力を育成することを目的とし、複数の教科・科目等の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究のプロセスを通して資質・能力を育成するのに対して、「古典探究」における「探究」とは教科・科目における理解を深めることを目的とし、教科の内容項目に応じた課題に沿って探究的な活動を行うものである。

新学習指導要領の国語科では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」\*の全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程が重視され、「考えの形成」に関する指導事項が位置付けられている。「考えの形成」とは、文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、自分の既存の知識や様々な経験と結び付けて考えを広めたり深めたりしていくことである。特に「読むこと」の学習過程の「考えの形成、共有」においては、いずれの指導事項も、探究的な学びの要素を含むものとして示されている。

なお、「国語表現」については、特定の指導事項ではなく「書くこと」の学習過程全体に探究的な学びの要素が位置付けられている。

また、各領域の指導事項に示された資質・能力は言語活動を通して育成する必要があるが、従前と同じく、例えば、話合いの言語活動が、必ずしも「話すこと・聞くこと」の領域の資質・能力のみの育成を目指すものではなく、「書くこと」や「読むこと」における言語活動にもなりうるように、育成を目指す資質・能力（目標）と言語活動とを同一視しないよう十分留意する必要がある。

---

\* 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域の指導事項に示された資質・能力が確実に育成されるよう、旧学習指導要領では、共通必修科目である国語総合の「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の領域にのみ示していた授業時数が、複数の領域をもつ全科目について設定された。

(2) 教科等横断的な視点を意識した年間指導計画の作成

国語科は、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成を目指す教科であり、各教科における言語活動の充実の要となる教科である。各教科・科目等で行うそれぞれの特質に応じた言語活動との関連も考慮しつつ、各科目の内容の取扱いで示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域の授業時数（「古典探究」については1領域のため、授業時数は示されていない）を遵守する必要がある。その際、一年間を通して、学習指導要領で示された各科目の指導事項を生徒が身に付けることができるよう指導計画を作成することが重要である。

次の表は、論理国語の年間指導計画の例である。

北海道〇〇高等学校 論理国語 年間指導計画（4単位）		A書くこと 50時間	B読むこと 90時間	使用教科書	〇〇〇〇	
		計140時間		学年	第〇学年	
科目の目標		単元名				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		4月	4月 5月	5月	5月 6月	6月
(1) 知識及び技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	の論理的展開を読み比べよう	理調査を行う	握資料と構成を捉えよう	る慣用表現の意図を捉えよう	し、論証の根拠が適切か確認
(2) 思考力、表現力、判断力等	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		情 報 を 整			
(3) 学びに向かう力・人間性等	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
指導領域	A書くこと		○		○	
授業時数	50時間		8		4	
指導領域	B読むこと	○		○		○
授業時数	90時間	8		6		7
他教科等との関連			総探	公共		
指導事項						
知識及び技能	(1) ア	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりする働きがあることを理解すること。	総合的な探究の時間の第2各学校において定める目標及び内容3(6)イ「情報の収集、整理・分析」に活用	○	公共の2内容A(2)ア(ウ)資料から情報を収集し読み取る技能等と関連	
	イ	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりする量を増し、文章の中で使うことを通して、適切にすること。				
	ウ	文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めること。				
	エ	文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。				
(2)	ア	主張とその前提や反証など構構と構構との関係について理解を深めること。	○			
	イ		○			
	ウ					○
(3)	ア					
	書くこと	図に合った適切な題材を決めること。		○		
	イ	情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。				○
読みこと	ア	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握すること。	○			
	イ	文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えること。			○	
	ウ	主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。				○

言語活動ではなく、各単元で指導し評価する領域の指導事項に「○」を付ける

科目の指導事項に漏れないよう計画する

## 2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

### (1) 論理国語「慣用句の意味を支える根拠を書こう（A 書くこと）」の計画例

**キーワード**    **リライト**    **根拠**    **慣用句**    **ICT活用**    **主体的に学習に取り組む態度**

#### ア 単元の目標

(ア) 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができる。

[知識及び技能] (2)ア

(イ) 情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができる。

[思考力、判断力、表現力等] A 書くこと(1)イ

(ウ) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

[学びに向かう力、人間性等]

#### イ 本単元における言語活動と教材

言語活動：慣用句の意味を支える根拠を書き批評し合う。

教材：「国語に関する世論調査」等

【知識及び技能】の後の「(2)ア」や【思考力、判断力、表現力等】A 書くこと後の「(1)イ」等は、学習指導要領「第2款 各科目」の「2 内容」における指導事項の記号を指す。

#### ウ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)	「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。(A(1)イ)	慣用句の意味を支える根拠について他者から批評を受けることを通して、粘り強く、情報の妥当性や信頼性を吟味する中で、自らの学習を調整しようとしている。

#### エ 指導と評価の計画（全5時間）

次	学習活動	指導上の留意点等	評価規準・評価方法等
一 (一単位時間)	○ 単元の目標や学習の進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○ 「国語に関する世論調査」の結果から、複数の意味の捉え方がされている慣用句（「気が置けない」や「役不足」、「情けは人のためならず」等）について確認する。 ○ 2通りの意味の捉え方がされている慣用句について、割り当てられた捉え方が、今後、より使用されていくという立場に立ち、その根拠を考察し、記述する。	・スクリーンに慣用句の例を複数提示する。 ・2通りの捉え方について、根拠を考える人数が均等になるように割り当てる。 ・他者からの反証を想定して、根拠を考えるよう指示する。 ・根拠はICT端末に配信したワークシートに記述させる。 ・第1次は個人で取り組ませることとし、書籍やインターネット等を参照させないようにする。	[知識・技能] 「記述の点検」ワークシート ・記述された根拠から、主張とその前提や反証など情報と情報の関係について理解を深めているかを点検する。
二 (二単位時間)	○ 相反する立場から書かれた根拠を読み、情報としての妥当性や信頼性について評価し、ワークシートの【批評】の欄に助言を記入する。 ○ 【批評】を基に、次時に調べることをワークシートの《改善へ	・根拠として挙げられた情報の妥当性や信頼性を疑い【批評】を書くことになるが、その際、「助言をする」という視点から書くように指示する。 ・助言を踏まえて《改善への手掛かり》を考えるよう指示する。	[思考・判断・表現] 「記述の確認」ワークシート ・《改善への手掛かり》を基に、他者からの批評を踏まえて、情報の妥当性や信頼性

	の手掛かり》の欄に記入する。		を吟味し、主張を支える適切な根拠を考えることができるかを確認する。
三 (二単位時間)	<p>○ 第2次の《改善への手掛かり》から調べたことを基に、自分の挙げた根拠の妥当性や信頼性を吟味し、改めて根拠を記述する。</p> <p><b>総合的な探究の時間における探究のプロセスのうち、「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」に当たることを意識して指導する。</b></p> <p>○ 単元の学習の振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3次の授業は図書館等で行うこととし、書籍やインターネット等を参考にして調べ、第1次よりも妥当性や信頼性の高い根拠を記述するように指示する。</li> <li>調べたことを基に根拠をリライトするが、その際、第1次で考えた根拠は消さないで残すよう指示する。</li> <li>単元の活動を通して、情報の妥当性や信頼性を吟味することができたか、吟味する際にどのようなことに留意すべきかを意識させる。</li> </ul>	<p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>「記述の分析」ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1次から第3次に至る改善の過程を通して、情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味しているかを分析する。</li> </ul>

オ 学習指導案 (5時間目 / 5時間中)

科目名	論理国語	単元名	慣用句の意味を支える根拠を書こう (A 書くこと)
本時の目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。		
本時(取り上げる)主な言語活動	前次までに自分が挙げた根拠の妥当性や信頼性を確かめ、不足している情報を調べてまとめ、それを基に根拠を書き改める。		
教材	「国語に関する世論調査」、ワークシート等	実施対象	第2学年
本時における評価の観点、評価規準、評価方法	本時の評価の観点	本時の評価規準	
	主体的に学習に取り組む態度	慣用句の意味を支える根拠について他者から批評を受けることを通して、粘り強く、情報の妥当性や信頼性を吟味する中で、自らの学習を調整しようとしている。	
		本時の評価方法 「記述の分析」 第1次の記述から、第3次の記述に至る改善の過程を通して、情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味しているかを分析する。	
学習活動 (言語活動)		指導上の留意点	
<b>導入 (5分)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を確認する。</li> <li>前時に考えた改善案を確認する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の検索ができるように、授業を図書館等で行うこととする。</li> <li>ICT端末を使用する際のルールについて確認させる。</li> </ul>	
<b>展開1 (25分)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>《改善への手掛かり》を基に自分の挙げた根拠の妥当性や信頼性を確かめ、不足している情報を調べる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>書籍やインターネット等から情報を集めるよう指示する。その際、情報の妥当性や信頼性に注意するよう意識させる。</li> <li>出典の示し方を確認させるだけでなく、誰が、いつ、どこで発信した情報かを確認することの重要性も意識させる。</li> </ul>	
<b>展開2 (15分)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>集めた情報をまとめ、</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>集めた情報を基に根拠をリライトするが、その際、第1次で考えた根拠は消さ</li> </ul>	
		<b>【評価の観点】</b> [主体的に学習に取り組む態度] <b>【評価方法】</b> 「記述の分析」 <ul style="list-style-type: none"> <li>記録に残す評価は、単元の終わりに提出されたワークシートを基に行う。</li> <li>本時の評価の観点である [主体的に学習に取り組む態度] の「慣用句の意味を支える根拠について他者から批評を受けることを通して、粘り強く、情報の妥当性や信頼性を吟味する中で、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「試行錯誤しながら、自分の考え</li> </ul>	

根拠をリライトする。 ・完成したワークシートを教員に送信して提出する。	ないで残すように指示する。 ・ICT端末で書き上げたワークシートを送信して提出するよう指示する。	がよりの確に伝わるよう情報の妥当性や信頼性について粘り強く考えている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、評価する。
<b>まとめ（5分）</b> ・他の生徒のワークシートを閲覧する。	・ICT端末を用いて、提出されたワークシートを共有し、生徒同士で閲覧できるようにする。	・ワークシートは、第1次に記述した根拠の妥当性や信頼性が、第2次での批評を経てどのように変容したかを1枚で見取ることができる構成にしている。

## カ 評価問題等

【生徒Aのワークシート】（単元を通して使用するもの。）

慣用句「気が置けない」の意味 2年〇組〇番 名前 生 **「主体的に学習に取り組む態度」を評価**

**将来、「相手に気配りや遠慮をしなくてはならない」という意味で使う人が増える！**

【根拠（Before）】

「KY」という言葉が流行ったことから分かるように、現代では周りの雰囲気を気にするべきだと考えている人が多いこと。

↓

【批評】

（生徒B）「KY」という言葉はいつ流行った？「現代では」とする根拠が弱い気がする。  
 （生徒C）「流行った」ことを裏付けるデータが欲しい。  
 （生徒D）「多い」と言えるのはなぜか。

↓

《MEMO》

○「KY」がいつ頃に流行したか調べる。  
 ○行動決定や意思決定に影響を与えるものとして、「空気感」のようなものが挙げられている調査はないか……。

↓

【根拠（After）】

2007年の流行語大賞に「KY（空気が読めない（読める）」という言葉がノミネートされたことから、現代では周りの雰囲気を気にして気配りや遠慮をする人が多いと考えられること。

### 評価「B」に達していると判断するポイント

【生徒Aのワークシート】において、【根拠（Before）】の段階では「現代」の定義がされていなかったり、「多い」と判断するに足る客観的なデータが示されていなかったりして、慣用句の意味を支える根拠が妥当性や信頼性に欠くものであった。しかし、第2次における他者からの批評を経て、第3次でリライトした【根拠（After）】では、「2007年の流行語大賞」に「ノミネートされたこと」といったように、「現代」の定義付けとして客観性のある情報を収集して記述していた。ここにおいて、生徒Aは第1次で考えた根拠を、他者からの批評を踏まえてリライトすることを通して、情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味する中で、自らの学習を調整しようとしていると分析できることから、単元の評価規準に照らして「おおむね満足できる」状況（B）に達していると判断した。

## 評価「A」に達していると判断するポイント

【生徒Aのワークシート】の【根拠 (After)】の後半において、「現代では周りの雰囲気<sup>①</sup>を気にして気配りや遠慮をする人が多い。」と述べる根拠について、例えば、行動特性に関する社会調査の資料を参照するなどして示そうとする姿が見取れると、「十分満足できる」状況 (A) に達していると判断することができる。

## 「努力を要する」状況 (C) と評価した生徒に対する指導の手立て

一方、批評において助言を受けているがそれを生かそうとせず、【根拠 (Before)】から改善が認められない生徒は、その理由を確認した上で「努力を要する」状況 (C) と判断することとなる。Cと評価された生徒が、助言を生かそうとする意思はあるが生かすための方法が分からない場合には、批評を書いた生徒とともに調査項目を付箋に書いて可視化することを助言するなどして、調べるための具体的な手掛かりを得られるよう促す必要がある（「考えるための技法」を活用）。

## (2) 文学国語 「文章を読み、言葉の解釈を豊かにしよう。」(B 読むこと)の計画例

**キーワード** 考えの形成・共有 問い 探究のプロセス 1枚ポートフォリオ

### ア 単元の目標

- (1) 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができる。 [知識及び技能] (2)イ
- (2) 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B 読むこと(1)カ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

### イ 本單元における言語活動と教材

言語活動：「堤中納言物語『虫めづる姫君』」の現代語訳や批評文等を読み、共感した点や疑問点を整理した上で議論し、考えを深める。

教材：「堤中納言物語『虫めづる姫君』」(現代語訳)

『虫めづる姫君』の観察眼(中村桂子著)

『あたしは虫が好き』を読むために(蜂飼耳)、ワークシート(1枚ポートフォリオ)等

### ウ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(2)イ	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(B(1)カ)	「虫めづる姫君」の内容や解釈を踏まえ、積極的に、人間、社会、自然と関連付けて、ものの見方、感じ方、考え方を深めていく中で、自らの学習を調整しようとしている。

エ 指導と評価の計画（全5時間）

次	学習活動	指導上の留意点等	評価規準・評価方法等
一 （二 単位 時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の目標や学習の進め方を確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 「虫めづる姫君」の現代語訳を読み、共感した点と疑問点について、その理由とともに整理する。</li> <li>○ 疑問点とその理由についてグループで共有・議論し、それぞれの疑問点を解消する視点をもつ。</li> <li>○ 共感した点と疑問点について議論した内容を基に、「虫めづる姫君」に描かれているものの見方・考え方とはどのようなものか、自身の考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「虫めづる姫君」の概略を伝える。</li> <li>・ワークシートを基に、単元を通して身に付ける資質・能力について理解させる。そのために、「虫めづる姫君」等の各教材を通して、「めづる（めづ）」という言葉に着目し、その解釈を深めることを伝える。</li> <li>・また、設定した【問い】（「虫めづる姫君」における「めづ」とは、どのようなものの見方・考え方を表す言葉か）を確認させ、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・各教材（現代語訳、批評文、原文等）をICT端末に配信しておく。</li> <li>・作品全体を読み、自身の考えや立場と比較することで、共感する点や疑問点を整理・分析するように指示する。</li> <li>・他者の視点は自身の考え方を豊かにするものであることを、議論を通して気付くように働きかける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>総合的な探究の時間で育成を目指す資質・能力、課題解決に向けた探究のプロセスのうち、「整理・分析」に当たることを意識して指導する。</p> </div>	<p>[知識・技能] 「記述の確認」ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材の文章内容について、共感したり疑問をもったりしながら読み味わい、ものの見方・考え方を豊かにしているかを確認する。</li> </ul>
二 （二 単位 時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICT端末を用い、「虫めづる姫君」が書かれた時代と「めづ」の意味について調べる。</li> <li>○ 「虫めづる姫君」の批評文を2つ読み、新しい視点を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT端末を用いて、ワークシートを基に、「虫めづる姫君」が書かれた時代や「めづ」の意味について調べるように指示する。</li> <li>・「めづ」の用例も含めて調べるように指示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>総合的な探究の時間で育成を目指す資質・能力、課題解決に向けた探究のプロセスのうち、「情報の収集」に当たることを意識して指導する。</p> </div>	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 「記述の点検」ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に新しい視点を加えて、「めづ」の意味を考えるために、情報収集をしたり批評文を読んだりしているかを点検する。</li> </ul>
三 （一 単位 時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調査で分かったことを基に、原文における「めづ」の意味を捉え直す。</li> <li>○ これまでの学習活動を踏まえて、「虫めづる姫君」における「めづ」とは、どのようなものの見方・考え方を表す言葉か、現代の世の中（人間・自然・社会）と関連付けて考え、自身の考えをワークシートに記述する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「虫めづる姫君」の原文で、「めづ」という言葉が用いられている箇所と、調べた意味と訳文とを照らし合わせ、「めづ」の意味について捉え直すように指示する。</li> <li>・改めて、単元の目標と【問い】について確認し、本単元の学習活動から得た新しい視点を踏まえて、考え、記述するように指示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>総合的な探究の時間における探究のプロセスのうち、「整理・分析」、「まとめ・表現」、「課題の設定」に当たることを意識して指導する。</p> </div>	<p>[思考・判断・表現] 「記述の分析」ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習活動全体を踏まえ、「めづ」という言葉が表すものの見方・考え方に対して、新しい気付きや視点をもって、世の中（人間、社会、自然）と関連付けて、自身の考えを形成しているか分析する。</li> </ul> <p>[主体的に学習に取り組む態度] 「記述の分析」ワークシート</p>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に、新しい気付きや視点を持ち、世の中（人間、社会、自然）と関連付けて、考えを深めようとしているか分析する。</li> </ul>
--	--	--	--

オ 学習指導案（5時間目／5時間中）

科目名	文学国語	単元名	文章を読み、言葉の解釈を豊かにしよう（B 読むこと）	
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めること。</li> <li>言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</li> </ul>			
本時で取り上げる主な言語活動	前次までの活動（議論や情報収集等）を踏まえ、自身の考えをまとめ・表現する。			
教材	「堤中納言物語『虫めづる姫君』（原文の一部）ワークシート等		実施対象	第2学年
本時における評価の観点、評価規準、評価方法	本時の評価の観点	本時の評価規準		本時の評価方法
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。（B(1)カ）</li> </ul>		「記述の分析」 <ul style="list-style-type: none"> <li>「めづ」という言葉が表すものの見方・考え方に対して、単元全体の学習活動を踏まえて、新しい気付きや視点をもって、世の中（人間、社会、自然）と関連付けて、自身の考えを形成しているか分析する。</li> </ul>
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「虫めづる姫君」の内容を踏まえ、積極的に、人間、社会、自然と関連付けて、ものの見方、感じ方、考え方を深めていく中で、自らの学習を調整しようとしている。</li> </ul>		「記述の分析」 <ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に、新しい気付きや視点を持ち、世の中（人間、社会、自然）と関連付けて、考えを深めようとしているか分析する。</li> </ul>
学習活動（言語活動）		指導上の留意点		評価の実際
<b>導入（7分）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の目標と本時の目標を確認し、本時の学習内容を確認し、学習の見通しをもつ。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元における最後の時間になることから、ワークシートで単元の目標や評価規準を改めて確認する。</li> <li>ワークシートの「【問い】『虫めづる姫君』における『めづ』とは、どのようなものの見方・考え方を表す言葉か」と、これまでの学習活動とをどのように関連付けるか確認し、まとめる際の観点を示す。</li> </ul>		<b>【評価の観点】</b> 「思考・判断・表現」 <b>【評価方法】</b> 「記述の分析」 <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート7の記述内容から、本時の評価の観点である「思考・判断・表現」の『読むこと』において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え</li> </ul>



	<p><b>【観点①】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「虫めづる姫君」における「めづ」が、どのようなものの見方・考え方を表すことであるかを、内容や時代背景を踏まえて述べること。</li> </ul> <p><b>【観点②】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【観点①】で述べたものの見方・考え方について、現代の世の中と関連付けて述べること。</li> </ul>	<p>方を深めている。」状況を、「『めづ』というものの見方・考え方に對して、新しい気付きや視点をもって、世の中（人間、社会、自然）と関連付けて、自身の考えを形成している」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、評価する。</p> <p><b>【評価の観点】</b></p> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <p><b>【評価方法】「記述の分析」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート全体の記述内容から、本時の評価の観点である [主体的に学習に取り組む態度] の『虫めづる姫君』の内容や解釈を踏まえ、積極的に、人間、社会、自然と関連付けて、ものの見方、感じ方、考え方を深めていく中で、自らの学習を調整しようとしている」</li> </ul>
<p><b>展開1 (20分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査内容と示された原文を基に、原文における「めづ」の意味を捉え直す。</li> </ul> <p><b>展開2 (20分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習活動を踏まえて、「虫めづる姫君」における「めづ」とは、どのようなものの見方・考え方を表すか、現代の世の中（人間・自然・社会）と関連付けて考え、自身の考えをワークシートに記述する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「虫めづる姫君」の原文において、「めづ」という言葉が用いられている箇所を示し、調べた意味と訳文とを照らし合わせ、「めづ」の意味について捉え直すように指示する。</li> <li>・導入時に示した、まとめる際の<b>【観点①】</b> <b>【観点②】</b>を大画面に表示するなど全体が共有できるように示し、本単元の学習活動から得た新しい視点等を踏まえて、記述するように指示する。</li> <li>・現代の世の中と関連付ける際、他教科で学んだ内容（例：『地学基礎』における自然環境と人間生活との関わり）など）と結び付けて考えてみることを示唆する。</li> </ul>	<p>状況を、「積極的に新しい気付きや視点をもって、世の中（人間、社会、自然）と関連付けて、考えを深めようとしている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、評価する。</p>
<p><b>まとめ (3分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習活動について自己評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元全体を振り返って自己評価するように指示する。</li> </ul>	<p><b>最後の「まとめ・表現」の過程では、【問い】に対して、改めて「整理・分析」を行い、「まとめ・表現」をすることで、新たな「課題の設定」の視点をもつことを示唆し、探究のプロセスを繰り返しながら、言語能力を育成していくことを意識して指導する。</b></p>

カ 評価問題等

1枚ポートフォリオのねらいⅠ、Ⅱ

Ⅰ 単元を通して、3つの評価規準について見取ることができるようにする。

Ⅱ 評価規準等を常に確認できるようにしておくことで、生徒が見通しをもちながら、主体的に考え、自らの学習を調整していくことができるようにする。

1枚ポートフォリオのイメージ

身に付けたい資質・能力（評価規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分のもの見方、感じ方、考え方を深めている。	「虫めづる姫君」の内容や解釈を踏まえ、積極的に、人間、社会、自然と関連付けて、もの見方、感じ方、考え方を深めていく中で、自らの学習を調整しようとしている。

  

【問い】「虫めづる姫君」における「めづ」とは、どのようなもの見方・考え方を表す言葉か。

1. 「虫めづる姫君」の現代語訳を読み、共通した点と疑問点について、その理由とともに整理しよう。

共通した点	その理由
疑問点	その理由

2. 疑問点とその理由について、他者と共有し、疑問を解消するための考え方を見つけよう。

疑問点	その理由	疑問を解消するための考え方

3. 1. 2.の活動を踏まえて、「虫めづる姫君」に描かれている、もの見方・考え方とはどのようなものだと考えらるか。自分自身の考えを書いてみよう。

4. 「虫めづる姫君」が書かれた時代について調べよう。

当時の女性について

当時の姫君について

5. 「めづ」の意味について調べよう。

6. 「虫めづる姫君」に対する次の批評文を読み、気付いたことや確認したことを書こう。

穂積真「『あたしは虫が好きな』を読むために」を読み、気付いたことや確認したこと

中村裕子「『虫めづる姫君』の観察眼」を読み、気付いたことや確認したこと

7. 1～6までの活動を踏まえて、「虫めづる姫君」における「めづ」とは、どのようなもの見方・考え方を表す言葉だと思うか。現代の世の中（人間、自然、社会）と関連付けて、自分自身の考えを書いてみよう。

自己評価

知	共通した点・疑問点を探ったり、その理由を述べながら、文章を読み味わうことができた。	A・B・C
技	他者と共通点を探り共有し、疑問を解消する過程を通して、見方・感じ方・考え方を豊かにすることができた。	A・B・C
情	調べたことと関連付けて、「虫めづる姫君」を読み味わい、「めづ」という言葉の解釈について、理解を深めることができた。	A・B・C
意	現代の世の中と関連付けて、「虫めづる姫君」を読み味わい、「めづ」という言葉の解釈を通して、自分の考えを豊かにすることができた。	A・B・C

【生徒Bのワークシート】（1枚ポートフォリオの「7.」の記述）

「思考・判断・表現」を評価

7. 1～6までの活動を踏まえて、「虫めづる姫君」における「めづ」とは、どのようなもの見方・考え方を表す言葉だと思うか。現代の世の中（人間、自然、社会）と関連付けて、自分自身の考えを書いてみよう。

「虫めづる姫君」における「めづ」とは、①探究的なもの見方を表す言葉だと思う。例えば、となりの屋敷の「蝶めづる姫君」と「虫めづる姫君」を比較すると、「めづ」のもつ意味が異なることが分かる。「蝶めづる姫君」の「めづ」は、はかないものや見た目が美しいものを「好む」ことを意味しているが、「虫めづる姫君」では、毛虫がどうなっていくのか観察し、毛虫が蝶になるという因果関係に興味をもつなど、探究心を意味している。②このように、対象をただ見て楽しむのではなく、疑問を持ってその答えを見いだそうとするような見方をするのは、現代の世の中における変化を見ていく上でも重要な視点になると考える。

※5行以上、必ず書くこと。

評価「B」に達していると判断するポイント

【生徒Bのワークシート】の「7.」の記述内容を分析して評価する。まず、下線①の記述から、「虫めづる姫君」における「めづ」という言葉が表すもの見方・考え方について、「探究的なもの見方」という新しい視点によって捉えていることが読み取れる。次に、下線②の記述から、新しい視点を、現代の世の中と関連付けている

ことが分かる。これらのことから、本単元の「思考・判断・表現」の評価規準に照らして「おおむね満足できる」状況(B)に達していると判断することができる。

#### 評価「A」に達していると判断するポイント

さらに、下線②に続けて、「例えば、昨年の大雪を、『雪が多くて大変だった』と表面的な感想として捉えるか、大雪の理由を地球規模の環境問題として考え、大雪と環境問題の因果関係を探究していくかでは、世の中の見え方が変わるのではないだろうか。」のような記述があるなど、より具体的に教科等横断的な視点から自らの考えを深めた姿が見取れると、「十分満足できる」状況(A)に達していると判断することができる。

#### 「努力を要する」状況(C)と評価した生徒に対する指導の手立て

一方、「めづ」の本文における意味については理解しているが、それをものの見方・考え方として新しい視点から捉えることができていなかったり、それを人間、社会、自然と関連付けられていなかったりする場合は、「努力を要する」状況(C)と判断することとなる。Cと評価された生徒に対しては、ワークシート6の部分について他の生徒と交流するよう促すことで、「情報の収集」と「整理・分析」を協働して行い、新たな気付きを得やすいようにするなど、学習形態を工夫する必要がある。